

石川県成長戦略（仮称）についての県と市町との意見交換会 議事録

（開催要領）

1. 開催日時：令和5年3月22日（水）9:00～10:30

2. 場所：オンライン開催

3. 出席者：

馳	浩	石川県知事
徳田	博	石川県副知事
村山	卓	金沢市長
脇田	明義	七尾市副市長
宮橋	勝栄	小松市長
坂口	茂	輪島市長
泉谷	満寿裕	珠洲市長
宮元	陸	加賀市長
岸	博一	羽咋市長
油野	和一郎	かほく市長
横川	祐志	白山市副市長
井出	敏朗	能美市長
粟	貴章	野々市市長
前	哲雄	川北町長
矢田	富郎	津幡町長
川口	克則	内灘町長
小泉	勝	志賀町長
寶達	典久	宝達志水町長
宮下	為幸	中能登町長
吉村	光輝	穴水町長
大森	凡世	能登町長
澁谷	弘一	石川県総務部長
光永	祐子	石川県企画振興部長
成瀬	英之	石川県企画振興部次長

（議事次第）

1. 開会

知事挨拶

2. 意見交換

石川県成長戦略（仮称）骨子案について意見交換

3. 閉会

（説明資料）

資料 1：石川県成長戦略（仮称）骨子案の概要

資料 2：今後のスケジュール

参考資料：石川県成長戦略（仮称）骨子案

1 開会

知事挨拶

【馳石川県知事】

さて、今日は、テーマは成長戦略でございます。選挙のときから申し上げているとおりでありまして、新たな10年という一つの目処ですが、環境問題などを考えると、20年、30年と長期的な展望を持ちながら、成長戦略を考えていく必要があると思っています。先般、骨子案を取りまとめましたので、資料として首長の皆様にはお伝えしてございます。政策ごとにもございますが、横串を刺せばデジタル化とグリーン化の進め方というのは、やはり協力して進めていく必要があると思っています。先週も加賀市の宮元市長とともに記者会見させていただきましたが、できる限り横展開をし、みんなで協力をして、広域データ連携基盤などを活用できるようにしていきたいと思っています。

今日は、そういった意味で、初めてでありますけれども、成長戦略の在り方について、地域性を踏まえて、各首長の皆様からご意見を頂きたいということです。その前に一応骨子案について、企画振興部の成瀬次長から3分以内にご挨拶を申し上げますが、できる限り皆様のご発言を賜り、幸福度日本一と言っておりますが、やはり県民一人一人の安全を守り、交流基盤を拡大し、活力のある県にしていきたいと思っておりますので、皆様からのご提言、どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局から石川県成長戦略(仮称)の骨子案を説明)

2 意見交換

石川県成長戦略(仮称)骨子案について意見交換

【宮元加賀市長】

知事をはじめ皆様、早朝からお疲れさまであります。今回、知事の発案で、首長さん方との意見交換の場を作っていただいたというのは、非常に素晴らしいなと、いいなと思っております。ぜひこれは定期的に続けていただきたいと、かつてないことでありますので、ぜひお願いしたいと思っております。

総合計画は事前に拝見して、今もご説明ありましたが、大体総合計画というのはこういうものですよね。総花的というか、役所が作るとやはりこんな形になるのだらうと思いますが、県民の目線から言えば、馳知事には恐らく県民の多くの方々がすごく期待感を持っていると思います。ある意味、予測不能な知事だともあるところでは言われておりますから、予測をはるかに超える大胆な総合計画というようなことを私は思っていたのですが、ちょっと地味かなという感じもします。

要は県として10年後のあるべき姿はではどうするのだ、目指すべき姿はどこに持っていくのだという未来の予測というか、どういう未来を実現したいかということが本来総合計画にはあってほしいというわけです。

DX、GXというのはいろいろと言われておりますが、これはあくまでも手段であって目的ではないということでありまして、国、地方とも手段としては既に一般化されているわけです。だから、これそのものは目的ではなくて、その先に一体何を描いていくかと。だから、県民がこれを見られた段階でどんなわくわく感を、わくわくした気持ちをどのようにして持ってもらえるかということが一番大事なのだらうと思います。

技術革新が急速に進んでいますし、現時点でかなりの大胆な予測をしないと、恐らく予測を超えるものになっていくというのは、これは間違いないと私も思っておりますので、大胆

な未来予想図をぜひ描いていただきたいと思いますし、そういうものが出来上がれば、よく言われるところのバックキャスティングと言いますが、さかのぼって今現在どういうことを始めなければいけないかということが分かってくるわけでありまして、そういう意味でロードマップをぜひそこから作り上げていくのだろうということになると思います。

なるべく短めに言いますが、読売新聞の首長アンケートがありました。知事をご覧になったと思いますが、県内11市8町あります。その中で最大の課題は、5市4町が消滅可能性都市だということです。これは急激に人口が減ります。我々の加賀市も含めてです。ある意味金沢を中心とした経済圏が一つある。それから、小松能美を中心とした経済圏があります。これは完全に産業集積としてのエコシステムが出来上がっています。だから、それ以外のところは非常に厳しい状況であるということです。従来型の社会資本整備では地域振興は明らかに無理です。ですから、県としてしっかりとしたどういうエコシステムを作っていくかという絵を描いていただき、それぞれ首長はいろいろな案を持っています。地域に即した考え方があります。それを知事と一緒に集約的に議論していただき、県だってやはり資源は限られているわけです、リソースが。だから、それを選択と集中をして、どういう形で投入していくかということが私は非常に大事だと思っております。

そういう意味では今回のミーティングを通して、自治体の首長とぜひしっかりと伴走していただき、それを積み上げていく。出来上がったものは県で議論してもらえばいいわけで、県議会と一緒にやってもらえばいいわけでありますので、首長との関係をより強固に、知事、ぜひ考えていただき、しっかりと皆様の意見を吸い上げていただき、しっかりとしたわくわく感を持った大胆な絵をぜひ作っていただきたいと思います。

【小泉志賀町長】

本当にこういう会議を持っていただき私も嬉しく思っております。デジタル化の推進については、ネットリテラシーの低い私がこういうことをこんな会議でしゃべってもいいのかなと思うのですが、ネットリテラシーといっても多分分かっているのは宮元陸市長ぐらいで、他の首長は分かっていないのかなと思っておりますが、ネットに対しての知識ということです。

まず、一つ目のデジタル化の推進について、やはりIT人材の不足やネットリテラシーが低いなどの問題により、セキュリティの向上が難しい状態にあることもあり、人材確保やシステムによるセキュリティ強化対策、職員一人一人のITスキルの底上げなどもDX化については必要不可欠だと思っております。令和7年度からの運用に向けて進んでいくということですが、県に対しては本当に市町を引っ張っていただきたいと思っております。

次に、子育て支援について、何といたってもやはり人口減少が激しい、子どもが生まれないということが一番の問題だと思っております。県においては一層子育て支援に力を入れていただき、出生率を高めていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

次に、カーボンニュートラルの推進について、能登には風力発電がたくさん建設の予定があります。これからトキの放鳥に向けても、この風力発電というものがどんな影響を及ぼすか、そのことについて知事もしっかり検討していただき、世界農業遺産にも認定されているということです。能登はやはり景観がいいなと思えるような地域にしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【村山金沢市長】

このような場を設けていただきまして、ありがとうございます。県の方で成長戦略を今、作られていますが、本市の方でも年内を目途に都市像を作っていくと考えておりますので、県とも歩調を合わせてまいりたいと思っております。

その中でも課題として考えているのは生産年齢人口です。人口減少問題はもちろんなので

すが、その生産年齢人口をどう確保していくか。幸福度日本一というところは、北陸地方は、幸福度ランキングはかなり高いところにあると思うのです。そういった中で、いかに産業を持ってくるかということが大事かというように思います。戦略1 新たな時代を捉えて飛躍・成長する産業づくり、これが最も大事だと思っておりますが、学生の県内での就職やU I ターンの人材確保、さらには新たな産業をどう作っていくか。スタートアップの創出、育成を行うということで、働く場の確保、魅力的な仕事を創出していくということがこれから求められると思います。ぜひそのあたりのロードマップを成長戦略の中でも示していただければと思っております。

また、これからたくさんの行事が控えておりますが、新年度の三つの大きな行事である「G7 富山・金沢教育大臣会合」や、「いしかわ百万石文化祭 2023」や北陸新幹線敦賀延伸だけではなく、その先の大阪関西万博まで見据えてやっていくべきだろうと思っております。これらの効果を最大限に生かしていくためには、骨子案の戦略3 個性と魅力にあふれる交流盛んな地域づくり のところが大事だと思っております。石川・金沢の魅力を磨き高めていくことはもちろんですが、交流人口の拡大、広域交通、あるいは域内交通の充実といったところが大事だと思いますので、この戦略3 中の「文化遺産の保存・活用」、「北陸新幹線の早期全線整備」、「安心して快適に移動できる公共交通の実現」、こういったあたりが大事だと思っております。

文化遺産の保存・活用については、日本銀行金沢支店移転後の跡地については、県とともに検討していきたいと思っておりますし、加えて、歌劇座、その周辺、本多の森の文化歴史ゾーンについては、ここにも県立図書館や県の社会福祉会館、これはどうなるか分かりませんが、こういったところもあり、重要な場所だと思っております。このあたりも、ここは成長戦略に入れるのは難しいかもしれませんが、一緒に議論させていただきたいと思っております。

北陸新幹線の早期全線開業については、これは大阪延伸について、着工が先送りとなったことは残念ですが、要となる京都府に対して、ぜひ県の方から直接話を頂ければと思っております。市レベルではどうにもならないというところでもありますので、ぜひお願いいたします。

3分経過になったのもう一つだけです。公共交通の実現について、特に石川線、浅野川線の北陸鉄道の関係、上下分離方式の導入、あるいはBRT化などについて協議を進めております。引き続き関係市町での協議について特段のご協力を頂きたいと思っております。

【脇田七尾市副市長】

茶谷市長は、本日、人間ドックに行かせていただいておりますので、茶谷市長からコメントを預かっております。本日そのコメントを紹介させていただきます。

まず、様々な分野に配慮された成長戦略であり、具体的な取組に期待したいところでございます。そして、その具体的な取組について3点を申し上げます。

第1点目として、人口減少が著しい日本において、さらに世界を見据えたグローバルな視野を持って施策に取り組む必要があると考えております。具体的には、世界の80億人をターゲットとしたマーケット、情報戦略の取組を行うのはどうか。

第2点目として、カンボジアのアンコールワット遺跡が世界遺産に認定され、シェムリアップという田舎が多くの方々を訪れて交流都市となっております。首都のプノンペンに働きに出なくとも、観光客ガイドや通訳で収入を得られる状況となっております。世界農業遺産を生かし、食の宝庫となり得るような一次産業に注力してはどうか。

それから、第3点目として、北陸新幹線の敦賀延伸により、関西圏からの旅行者への不便さが懸念されております。能登の玄関口としての、のと里山空港に関西国際空港や中部国際

空港からのLCCを離発着することで、小松空港やのと里山空港が、世界からの日本海側の玄関口、随一のハブ空港、交通の拠点となる取組をお願いしたい。

【宮橋小松市長】

今日はこのような機会を頂きまして、ありがとうございます。時間が限られていますので早速よろしく願いいたします。

まず、小松市というよりも、小松空港というのは、石川県、北陸にとって非常に重要な都市機能であると思っておりますので、やはり小松空港の機能アップということを県挙げて、ぜひ市も一緒になって取り組んでいきたいと思っております。

特に新幹線の県内全線開業を見据えて、レール&フライトということを重要だと思っておりますし、市としても今、自動運転バスを小松駅と空港間を走らせるように実験も行ってありますが、空港と駅の一体的な活用ということに力を入れていきたいと思っておりますので、ぜひこれは小松駅だけではなくて、加賀温泉駅、また、金沢駅も含めて、このレール&フライトにぜひ取り組んでいければなと思っております。

また、やはり産業創生というのは好循環を生み出していくための一番基本になってくると思っております。特に若い女性の皆様は、進学を機に出られた後、女性の方が戻ってきている割合が少ないというのは明らかになっておりますので、ぜひ若い女性の皆様が働きたいと思えるような産業創生に全県挙げて取り組んでいくことが必要ではないかと思っております。

そして、公共施設マネジメントということも非常に重要だと思っております。やはり金沢中心に多くの施設が立地しておりますので、そういったことを県内全体に拠点として分散化させていくということも、県内全体の発展のためには重要なことだと思っております。スポーツ施設や公園など、様々な公共施設があるかと思いますが、こういったところをぜひ県内全体に広げていっていただければなと思っております。

また、林業について、中山間地域、里山と言うと非常にきれいな言葉なのですが、実際には里山と言えるレベルでないような荒廃した山が増えてきているということを実感しています。私もそういった地域に住んでいまして、野生動物との境がなくなっているということを実感していますので、こういった地に足のついた中山間地域の振興というものを林業の産業化と合わせて行っていく必要があるのではないかと思っております。

そして、南加賀の地域でもいよいよ高校が、主要な高校以外は定員割れが全て起きているというような状況です。「大谷ショック」といわれて大谷高校の魅力が非常に上がってきていて、南加賀の中学生が大谷高校を選んでいきます。そういった部分では大谷高校の魅力がすごく上がっているということで評価はできる点もあると思うのですが、やはり県立、公立の高校もそれぞれの高校の特色を出して、特に実業高校など、こういったところをもっと力を入れていく、実業高校というのは将来の県内の産業を支えていただける人材育成の場でもありますので、そういったところにもぜひ取り組んでいただければと思っております。

最後になりますが、やはりテキストだけのビジョンではなくて、ぜひ知事が思い描く具体的なイメージを絵であったり、映像にさせていただいて、これを発表していただくと、県民の皆様により深く伝わっていくのではないかと思っておりますので、そういったこともぜひ期待していきたいと思っております。

【坂口輪島市長】

今日はこうした機会を作っていただきまして、本当にありがとうございます。

輪島市を含めた奥能登の何よりの課題といたしますのは、やはり人口減少だと思っております。幸福度日本一を目指す石川県としまして、奥能登地域のこうした課題をしっかりと対応

していただければというのが何よりの思いであります。そうした中では、とにかく若い人たちが移住して、定住していただけるように、若い人たちが安心して出産して子育てができる。そんな対応、対策が今後とも必要になってくると思っています。

そうした中では、輪島病院を含めて奥能登地域で赤ちゃん協議会の中で産婦人科医師の複数配置ということに関して、知事の行動力で本当に取り組んでいただきまして、心から感謝をいたしております。本当にありがとうございます。石川県全体として、安心して出産し子育てができる環境をこれからもどんどん進めていただければと思っています。

輪島市といたしましても、小中学校の給食費無償化、18歳までの医療費の無料化など、シビアな財政の中でもこうしたことに取り組んでいるところではありますが、もう一つは高校の無償化をしながら、輪島市に公立高校が二つありますが、その存続に対しても今、力を入れているところでありまして、おかげさまで門前高校が一昨年11名しか新入生がいなかったのですが、取り組んでいる中で、昨年は新入生が28名、今年は46名になりそうです。今どんどんと増えていますので、今後ともしっかりとそういった取組をしていきたいと思っていますが、そうした中で、県立の高校なのですが、輪島市で新入生の寮を建設させていただきました。どうしても民間のアパート、寮、下宿屋というものがないので、間に合わないということで、門前高校に行きたいという生徒の問い合わせがありましたので、輪島市の方で決断させていただきまして、少し金額が張りましたけれども建設させていただきました。維持管理に関しましても結構大きなお金が要ります。そういった部分ではぜひともまた石川県の方からもお力添えいただきたいと思っています。

そして、もう一つ、輪島市はこれまでデジタル化が遅れていました。ここでこの遅れを挽回すべく、石川県とともにしっかりとデジタル化を進めていきたいと思っていますが、石川県としての全体のスキームというものを1日も早く作っていただければ、輪島市も合わせてしっかりと特色のあるデジタル化も進めていきたいと思っています。

最後にもう一つです。もう一つはインバウンドです。その推進に輪島市も力を入れていきたいと思っています。おいしい食が石川県にいっぱいあります。輪島市にもあります。この美食と、そして、輪島市には輪島塗という器もあります。県内には山中塗もあります。漆器もありますし、九谷焼もあります。こういった部分で美食と器ということでしっかりと世界に売っていただいて、美食世界一の地域を、石川県を中心として作っていただきたい。インバウンドをどんどん入れていきたいと思っていますので、ぜひとも一緒に力を合わせてお願いしたいと思います。

【泉谷珠洲市長】

こうした機会を設けていただきまして、誠にありがとうございます。この成長戦略の骨子でございますけれども、完璧だなと思っています。私としても、この幸せというところを感じるためには、やはり安心して住めるということと豊かさが大事だと思っています。

安心して住める地域にするためにはやはり医療は欠かせないと思います。今、奥能登2市2町の地域医療を考えたときに、周産期医療を石川県立として設けていただくだけではなくて、ここに至っては、もう石川県立能登北部病院、奥能登病院を整備していただく。そっちの方向に向けていろいろと議論を始めていただきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。だいぶ環境が変わってきておまして、珠洲の病院も建設時の借金もだいぶ減ってきました。そういったこともありますし、穴水の病院の方でも、おこがましいのですけれども、建て替えというお話もあるみたいです。そういったところも含めてよろしくお願いしたいと思っています。

次に、観光でございますが、インバウンドの誘致といったもの、これは自治体だけではなくかなか難しいところがありますので、県の方でまたいろいろとご支援を頂きたいと思っています。

馳知事は来月台湾の方に行かれるということですが、その1週間後に私も台湾の方に行きまして、奥能登国際芸術祭のプロモートに行つてまいりたいと思います。そういったところも併せてよろしくお願ひしたいと思います。

3点目は農業です。農業につきましてはスマート農業の推進です。他の都道府県において農林事務所等が本当にあまりお金をかけずにスマート農業を取り入れていくといった取組も進んでいるようでございます。そういったスマート農業に取り組んでいくそういう人材ということもあります。ぜひあまりお金をかけずにローコストでスマート農業に取り組んでいける、そんな環境を作つていただきたいと思っています。そして、またこれから能登ではトキの放鳥もございませう。環境保全型の農業、もっと言うとオーガニックということになるかもしれませんが、それを進める上での生産者への支援、そういう環境に配慮したお米作りを進めるときには、やはり収量が落ちたりしますし、あるいは草刈りなどで労力もかかりますので、具体的な、お米10キロ当たりこれだけの助成をします、支援をしますといったあたりをぜひ早急に組み立てていただきたいと思っています。

併せて、農産物も含めた輸出ですが、農産物、そしてまた、石川県にはおいしいお酒がいっぱいあります。そういったお酒や、珠洲には珪藻土コンロもございませう。おかげさまでご支援を頂いて丸和工業のコンロの窯も復旧できましたけれども、農産物、お酒、珠洲ではコンロ、こういった工芸も含めて輸出の販路開拓をぜひ県の方でしっかりと取り組んでいただきたいと思っています。また、自治体の方も汗をかくのはもちろんですけども、よろしくお願ひしたいと思っています。

【岸羽昨市長】

羽昨市は2020年、第6次の羽昨市総合計画を策定しております。今回示されました成長戦略を、すり合わせをしながら3点について少し提言をさせていただきます。

まず1つ目は、女性の転出超過の抑制についてです。県におきましても女性の転出、特に若い方が多いということが話になっています。羽昨市においても、特に20代の女性が転出していくということで、女性の支援につきましては、施策の中において加算をしているのですが、そういった女性に魅力あるまちづくりというのが課題だろうと思っています。そういった中で、今回示されました骨子案の中におきましても、女性活躍ということ掲げられています。県全域をカバーするような女性に特化した具体的な施策、支援事業を具体的にお示ししていただければと思っております。

次に、2点目ですが、持続可能な自然環境の構築です。世界農業遺産を形成します宝達志水町以北9市町でトキの放鳥の受け入れが決定しておりますし、モデル地域も示されました。これは本当に将来的な大きな可能性を秘めているのだらうと思っています。羽昨市に在住されています村本義雄さんも県のトキのスーパーバイザーとして任命されたということが大きな話題になっておりますが、能登地区全体が広域的に生物多様化の保全に取り組むモデル地域であるということをしてPRしていく絶好の機会であると考えています。さらに県と関係市町とで、一次産業であります農林水産物や里山・里海の資源のブランド化について広域的に推進していくことが必要だらうと思っております。能登地区全体とで魅力ある発信に積極的に取り組んでいきたいと思っておりますので、県と9市町で連携を取り組んでいくようお願ひしたいと思っております。

最後に3番目ですが、デジタル化の推進です。国が示していますデジタル田園都市国家構想については、急速に今、進んでいますが、こういった進め方について、また県、それから市町とで連絡会議を開いていただいていることにつきまして感謝申し上げたいと思っております。しかしながら、国、県、市町とで担う役割が明確になっていませうので、こういったところについてしっかりとどういうところを担っていくのかの連携を取りながら示していただ

きたいと思っておりますので、引き続きこういった会議、連絡を密にさせていただきたいと思っております。特に例を挙げますと、コミュニティの構築、デジタル化というのは市町で担当しなければいけません、そういったものについて積極的にまた県と市町の住み分けを明確にさせていただくようお願いをさせていただきたいと思っております。

【油野かほく市長】

いつもお世話になっております。骨子案を見せていただきました。目指すべき姿としての日本一幸福な県土づくりを挙げられていますが、まさに馳知事がいつもおっしゃっていることが前面に出ているということで、分かりやすくいいのではないかと思います。

そのための六つの戦略と、それから、二つの横断的戦略を掲げられています。この横断的戦略としてのデジタル化、また、カーボンニュートラル、これについては我々もしっかり取り組まなければいけないということで、県は全面的にリーダーシップを発揮してやっていただいている。大変心強く思っているところでございます。

かほく市は現在、デジタル田園都市国家構想に基づいて、今、作ってある総合戦略の見直しを来年度に取り組みたいと思っているところでございます。もちろんこれは地域を活性化させて人口減少に歯止めを掛けるという大きな目的があるわけでございます。これまでの2期については、おかげさまでかほく市はこれで8年連続人口が増えているという大変ありがたい結果も出ているところでございます。ただ、いつまでもこういう状況が続くわけではございません。今後、県の成長戦略を参考にさせていただきながら、そことの整合性を持たせて、少しでも住民の皆様にご満足していただける地域づくりにこれからはしっかり取り組みたいと思っております。そのことが幸福度アップにもつながるということで、県の幸福度日本一にも貢献できるのではないかと考えているところでございます。

現在の総合計画の中では、地域別の目指すべき方向性が示されていたかと思います。石川県も能登があり、加賀があり、我々も今、中央都市圏としてのまちづくりに取り組んでいるところでございます。それぞれいい資源もあり、また、多くの課題もあるかと思います。この良いところは伸ばし、また、課題については一つでも解決することによって、石川県全体の魅力をアップさせて、そして、選んでもらえる石川県、そして、選んでもらえるまちづくり、こういったことに貢献していただければと思います。今後とも魅力ある石川県づくりをよろしく願い、私からの提言とさせていただきます。

【横川白山市副市長】

冒頭に、故山田市長に対し言及を頂き、ありがとうございます。

白山市としましては、戦略3 個性と魅力にあふれる交流盛んな地域づくり について申し上げます。

白山市全域をエリアとする白山手取川ジオパークの世界認定が今年5月に開催予定のユネスコ執行委員会において決定されるものと期待しております。認定されればインバウンドによる外国人観光客をはじめとして、北陸新幹線の全線開通に向けて本市が整備する鉄道ビクターセンターを利用する観光誘客の需要も見込めることから、観光客の移動手段が重要となる中で、金沢駅などの拠点からの二次交通の確保が課題です。その地域公共交通は通学や通勤に使われ生活に欠かせないものであることから、石川線、路線バス、I Rの持続可能な運用が求められております。石川県におかれましては、ジオパークの世界認定後の支援として、国際セミナーの開催やスタディツアーの誘客などの支援をはじめ、受入態勢として白山ろくテーマパークの整備促進や、白山白川郷ホワイトロードの早期復旧および強靱化、二次交通の安定運用に向けた支援などを成長戦略の中において検討していただければと考えております。

【井出能美市長】

このような機会を頂き、ありがとうございます。骨子案を読ませていただきました。この多種多様な内容の中で能美市の課題に絡めて1点だけ報告をさせていただきます。それは人材確保です。能美市はおかげさまで企業誘致が好調、あるいは地元の企業も増床をしているという中で、この人材をどうやって確保していくかということが大きな課題になっています。特に地元の企業から進出した企業に人材が流出をしていってしまえば、この企業誘致や増床の効果が半減するわけで、いかに人材を確保していくかということが重要な課題になっています。

そんな中で骨子案の10ページに記載されている内容を掘り下げてお尋ねしていきたいと思うのですが、例えば学生の県内就職の促進について、石川県というのは、人口10万人当たりの大学、短大の数が京都に続いて全国第2位であり、いかに石川県で学んでいる学生を引き続き石川県で就職をしてもらうかということが大変重要なポイントだろうと思います。

それから、UIターン人材の確保ということですが、これはいわゆる大都市圏からいかに石川県に戻ってきてもらうか、あるいは就職をしてもらうかということなのですが、この石川県の魅力がなかなか大都市圏には伝えきれていないということがありまして、いかに石川県の魅力を伝えていくかということが大きな課題になってくるのだろうと思います。

そして、女性・高齢者の活躍促進という項目がございますけれども、ここも女性が働きたくなくなるような職や事業所をいかに設けていくか。やはり大都市圏には女性が働きたくなくなるような職が大変多くあるのだろうと思いますが、そういったところが地方にはまだまだ少ない。あるいは高齢者が働きやすい場所や職をどうやって確保していくかということも、人材確保につながっていくと思いますし、ひいてはこの人口減少に対しても大きな効果が示されていくのではないかと思います。こういったことを単独の自治体だけでやるのではなくて、オール石川で取り組んでいって、人材確保、あるいは人口減少対策につなげていきたいと思っておりますので、知事のリーダーシップをよろしくお願い申し上げます。

【粟野々市市長】

成長戦略は石川県における長期計画ということですので、初めに野々市市の総合計画について少しお話をさせていただきたいと思います。

野々市市では、今年度から第2次総合計画の計画期間が既にスタートしております。10年後に目指す将来都市像については、市の関係団体所属の人でありますとか、公募に応じていただいた市民の方、そして、市の特に中堅・若手職員で構成する作業部会というものを設置して検討を行いまして、かがやき無限大 みんなでつくるインパクトシティののいちとさせていただきます。市の魅力を市民の皆様と一緒に磨いていくことで市内外の方に大きなインパクトを与えることができる、輝きあふれる野々市市を目指して、様々な分野の施策に取り組んでいるところでございます。

当市では、この第2次の総合計画に基づいて、市民の皆様が元気に活躍することのできる、いわば市民が主役のまちづくりに向けて取組を進めているところですが、石川県全体といたしましても、成長戦略の策定に当たって、やはり県民が主役であるという視点を忘れてはならないのではないかと考えております。石川県には文化、食、自然などあらゆる分野の魅力がたくさんございますので、こういった魅力を磨き上げて県外へ発信していくことは、もちろん県の成長につながっていくことと思っています。

また、今ほど述べさせていただきましたような有形の魅力だけではなくて、やはり実際に石川県で暮らしている方々の生活の質の高さや豊かさ、こんなことを発信していくことが県内、県外の方の目に石川県の暮らしというものがより魅力的に映って、移住、定住の促進につながる。また、県のさらなる成長、注目度の向上につながっていくのではないかと考えて

います。でありますので、骨子案の中にございました目指す姿、幸福度日本一の石川県、この実現に向けては、県民の皆様の生活環境や暮らしの質を向上させるための施策について重点的に取り組んでいくことが大切なのではないかと思っております。特に子育て支援の分野においての子ども医療費の助成、あるいは給食費の無償化など様々な課題については、今それぞれの自治体で取組を行っておりますが、こういったことも県下統一した取組によって、県民全体の皆様の暮らしを支えていける。そんなことをぜひ、リーダーシップを県に取っていただいてご支援いただければ大変ありがたいなと申し上げて提言とさせていただきたいと思っております。

【前川北町長】

まずは様々な分野にわたって積極的に施策を推し進められる姿勢が示されております。幸福度日本一、さらに豊かな未来づくりということであろうかと思っておりますので、敬意を表したいと思っております。

私は1点に絞りますが、この中にデジタル化の推進がございます。本町でも新年度より重点施策の一つにデジタル化の推進を追加したわけですが、例えば新年度予算におきましても、一つ申し上げますと、水道業務へのスマートメーター、クラウド型の監視システムの導入も計画しております。そして、先般、デジ田の交付金に町内の全ての小中学校の電子黒板導入が採択をされました。今、6月議会に補正予算で出そうかなと、そんなことも考えております。この成長戦略の骨子案においても、横断的な戦略としてデジタル化の推進が掲げられており、連携を図りながら取り組んで、町の事業に対するご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

いろいろな事業が書いてありますが、最終的には何を実施するにいたしましても大変な費用がかかるわけです。当然その辺はお含みと思っておりますが、さらなる産業の振興、創出が大事であり、確固たる財政を含めた行財政基盤の強化、これが基になると思っておりますので、これまで以上のご活躍をよろしくお願いいたします。

【矢田津幡町長】

私の方からは、成長戦略の中で横断的な戦略として掲げておりますカーボンニュートラルの推進につきましてお話をさせていただきます。わが町におきましても、昨年6月に2050年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロにすることを目指すゼロカーボンシティとして町民、事業者、行政が一丸となって力強く取り組んでいくことを宣言いたしました。その実現に向けまして、現在再生可能エネルギーの最大限導入のための計画と、その成果を踏まえ、地球温暖化対策推進法に策定根拠を置く、いわゆる地方公共団体実行計画（区域施策編）を環境省の補助金を活用して策定しているところです。

国が目標とする2050年カーボンニュートラル実現までの道のりは決して平坦ではなく、現時点ではまだ十分に先が見通せる状況にはないと考えております。カーボンニュートラルへの挑戦は、町民、事業者、行政にとっての大きな試練であり、私の町政運営の大きな柱でございます。30年後、50年後を見据えた子の世代、孫の世代のためのまちづくりにおいても、行く末を左右する最大の課題と捉えております。カーボンニュートラルの推進に当たっては、国や県、各市町が連携をより一層強化していくことが必要となることから、県を中心にしっかりと取り組んでいくことが大切であると考えております。

もう一つは観光でございます。20世紀の末に21世紀は観光の世紀と言われた、そんなことを思い出すわけでございますけれども、残念ながらわが町には大きな観光地が見当たりません。年始に大勢の参拝客が来る倶利伽羅不動寺であったり、また、夏休み中の河北潟のひまわり村であったり、こういったところが主なところかなとも思いますし、先日、知事が

日曜日にお越しいただきました森林公園、今年は50周年を迎えるということもあって、先日はいしかわ動物愛護センターの起工式が行われました。この後様々なものが50周年を記念してやっただけのわけですが、来年夏までには室内木製遊具施設も完成することになっておりまして、多くの人に来てもらいたいと思っております。

そんな中で私どもは倶利伽羅地区に体験型観光交流公園、もう観光地は自分たちの手づくりの時代だ、そんな思いもあってやろうとしております。将来、モミジ3000本を植栽し、まさにモミジの名所にしたいとも考えているところでございます。どうぞ県におかれましては絶大なるご支援を賜りますようによろしくお願いいたします。

【川口内灘町長】

お世話になっております。今日はよろしくお願いいたします。私は15番目なのですが、皆様のご意見の中に私の言いたいことがほとんど入っていますけれども、二つだけ述べさせていただきます。

まず最初に、持続可能な公共交通の確保・維持についてでございます。こちらにつきましては、村山市長のご意見の中にもございました。鉄道やバスは大量輸送が可能な公共交通機関であり、地域にとって通勤・通学手段として必要不可欠なものだと考えております。しかし、県内の公共交通事業者は大変厳しい経営状況にあり、当町内におきましても、鉄道の減便やバス路線の統廃合などが行われ、その利便性が低下している状況です。こうした中、事業者は自助努力による確保・維持が困難なため、上下分離方式の導入を含め、行政による支援策の検討について要望を受けております。公共交通は環境に優しく、カーボンニュートラルにもつながるものと期待しております。つきましては公共交通の確保・維持に向け、知事のリーダーシップの下、関係市町とともに取り組んでいただきますようお願いを申し上げます。

2点目は、先ほど粟市長のご意見の中にもありました学校給食費の無償化についてです。人口減少や少子高齢化が進む中、一部の市町では子育て世代の経済的負担を軽減するため、学校給食費の無償化に取り組まれております。しかし、事業継続には財政的負担が大きく、各市町の財政状況等によっては地域間格差が生じている状況です。本来であれば国が率先して全国一律に取り組むべきものと考えておりますので、ぜひとも知事のリーダーシップの下、県内市町とともに国への要望活動に取り組んでいただきますようお願いを申し上げます。

【寶達宝達志水町長】

寶達です。おはようございます。よろしくお願いいたします。

私からは、戦略5 温もりのある社会づくり についてお話しさせていただきたいと思っております。年間の出生数が80万人を切りまして、従前の見込みよりも11年早く少子化が進んでいる、そのような状況があります。こういったことを踏まえて、岸田首相におかれましても異次元の少子化対策ということで強く打ち出しておられます。

その中で私も、先ほど粟市長、そして今、川口町長がおっしゃられましたが、給食費の無償化が重要ではないかと思っております。川口町長がおっしゃったとおりなので、詳しくは述べませんが、町レベルですることよりも国全体ですればどうかと私も同じように思っております。これと、保育料の完全無償化、こういったこともできればいいのではないかと、若い子育て世代には大変助かることではないかと思っております。こうしたことを、新幹線の県内全線開通ということもありますが、こういったタイミングで県が大いに注目を集めるようなときに打ち出せばいいのではないかと思っております。

それと、若い世代の子育てや生活の支援という意味合いで、県の住宅供給公社が宅地の供給等を行っておりますが、割合人の多い地域にこういったものが開発されて提供されている

のではないかと考えております。金沢に比較的近いエリアです。それで、土地を買う。家を建てて住むとなると4000万円前後かかる。もっと高かったりもしたと、そんなことも聞いております。これが若い人にとっては結構大きな負担で、なかなか求められないということもありますので、例えば、若い世代の手が届くような、2000万円台とかで済むような価格で販売できるようなこともできればいいのではないかと考えております。

もう一つ、婚活について、近年、県においてもいろいろなシステムを入れられたりですとか、積極的に取り組んでおられますので、今後もこれを続けていただければと考えているところでございます。

【宮下中能登町長】

私からは成長戦略策定の中で、全ての県民への必要な医療提供ということでお願いします。

当町におきましては、近隣市町のような総合病院はありません。現時点では町民の皆様は不都合がないかもしれませんが、これからにおいて、10年先、20年先を考えますと、お医者さんも高齢化になりますので、ぜひこういう医療体制の構築をやっていかなければならないということを考えております。そういう中で、医療、介護、予防、生活支援など、そういうものを含めて県からの手厚いお医者さんの派遣をお願いしたいということを考えております。現在、メディカルパーク構想を町では予定しており、医師の入る施設を今、造ろうと考えているわけですが、いろいろな面でこの医療体制をこれから構築していかないと、先ほど申しましたように、医療、介護、予防、生活支援などの中で、団塊の世代の皆様が2025年に75歳以上になると、急激に医療体制の構築が必要となりますので、ぜひこのメディカルパークに医師の派遣をお願いしたいということが1点です。

それと、知事の公約にもあります、世界農業遺産を見極めての農業大学の設置ということで、実はうちの町に2027年に飛騨高山大学のサテライトキャンパスができます。そこは経済的なことを含めた人材育成の大学なのですが、それが2027年に開校を予定しております。そういう中でいろいろな面で、うちの町にも従業員が200人以上の企業があり、その企業は4社とも日本一の看板を背負っているような会社でありますので、いろいろな面を含めて、この世界農業遺産に対する農業大学の誘致というものもこの近辺で必要ではないかということを考えておりますので、よろしく申し上げます。

知事におかれましては、素晴らしいリーダーシップを持っておられますし、柔軟な発想力もお持ちですので、ぜひまたこの地域に対しましてご配慮をお願いしたいと思います。

【吉村穴水町長】

今日はよろしくお願ひいたします。私の方からは3点、町が抱える課題、そして、町独自の取組では非常に解決が困難だと思われる内容について、重複しますが発言をさせていただきます。

まず、公共交通の施策についてこれから考えていなければいけないと考えております。当町は高齢化率50%を超えるエリア、そして、中山間地域が非常に多く、エリアが広い地域です。生活に最低限必要な移動がままならない交通弱者がたくさんいます。そういった方へのサポートを考えて公共交通の仕組みを考えていかなければいけない。特にこれは日本全国的な課題でもありますので、様々なエリアで実証実験等をされていると思います。ぜひ奥能登2市2町、特にこの2市2町の課題解決をすることで、日本のモデルになれるような仕組みを県が存在感を示し、考えていければなと考えております。

二つ目が一次産業への対応についてです。特に農業、林業、漁業、そして、今、個人事業主が非常に稼げるものにはなっていないという現実があります。特に林業については、穴水町の大部分を占める山林は資源の宝庫であり、これらを活用することでヒト、モノ、カネの

動きを生むということが重要ななと思っておりますので、一次産業を含め稼げる産業を育てることが非常に課題となっております。

三つ目が人材育成について。これは、DXはもちろんなのですが、教育者の確保が非常に課題かなと考えております。小中高、学校教育に関わる職員の能力というものは、これまでの教育者としての能力に加えて、まさにDX、ICTを活用したチームを主導できるような人材が必要だなと考えております。過疎地における教育、DX、ICTの活用というものは非常に大切なものだなと考えておりますので、これからも町と県と一緒に考えていければと思っております。

【大森能登町長】

いろいろと皆様のお話を聞く機会をいただきまして、本当に感謝を申し上げます。

戦略でございますが、各分野においていろいろと事細かな戦略が掲げられておりますが、まず、この中で横断的戦略というのが非常に私はいいい戦略であるなと思えます。奥能登の課題というのは、皆様おっしゃいましたが同じです。どの業種の分野においても人手が不足しているということ、もう一つは、当然子どもが少なくなっているということです。そんな中において、この横断的戦略のデジタル化の推進というのは非常に有効であると考えておりますので、石川県のどの地域においてもある一定程度のデジタル化のレベルをぜひ石川県の方でやっていただきたいと思っております。

それと、私たちのところは一次産業が産業構造の主たる産業でありますので、ぜひその辺もお願いしたいということで、特に収益力の高い農林水産業ということで、稼げる農業というところをぜひお願いしたい。

あと、能登空港が奥能登にあります。ぜひ関東圏の人、あるいは外国人を呼び込むような形で、能登空港を最大限に利用した形で観光ルートを確立させていただければと思います。

そして、輪島市長もおっしゃいましたが、高校です。県立高校の存続に私たちも力を入れております。いろいろな形で今、能登高校の魅力化事業に取り組んでおりますが、これは要するに子どもを確保したいということでありまして、ぜひ知事、全国募集をお願いしたいと思っております。そのためには町も県と一緒に努力をしていきたいと思っておりますので、何とぞよろしくお願い申し上げます。

当然、戦略に対する目標値というものを決められると思いますが、ある程度の何年後を目処に、この辺をぜひとも示していただくことによりまして、私たちもそれに向かった同じような方向を向いて事業を展開していけると思います。何年を目処に、何年後など、目標をぜひ掲げていただければと思います。

【馳石川県知事】

どうもありがとうございます。先週、東京に行っていろいろと情報収集をしてきました。多分今日発表になると思いますが、例の物価高対策で総額2兆円を超える予備費を活用した経済対策をするという話が与党の中核からありましたので、発表するのなら令和5年度予算が終わってすぐに早くやってくれというようなことをお伝えしてまいりました。粗々の数字で言えば、石川県の方には大体70億円ぐらいが想定されるらしいので、であるならば、これは多分臨時交付金という形で来るのでしょうか、メニューについて少なくとも6月補正に出せるようにしようということで、財務の関係の方で今、調整中ということ、まず冒頭にお伝えしておきたいと思えます。

全てのご発言を参考にし、最終取りまとめに向けての貴重な市町からの提言というようにまず受け止めた上で、私ははっきり言いますが、8つぐらい今日のお話伺い、日ごろ考えていることを申し上げます。

1点目は、財源をどうしようかなと考えています。当然各市町、県、そして、国と連携しながら、社会保障に関しては当然保険料等が使われたりしますし、自己負担もございます。安定的な財源の確保という観点からも、県としてはこれまで以上にスクラップアンドビルドはやっていかなければいけないという、まずこの方針をお示しします。

2つ目は、やはり専門的な人材が足りません。カーボンニュートラル、津幡町の矢田町長がおっしゃったように、あれはやろうと思っても、どこをどうすれば津幡町として削減していくことができるのかという数値計算も、要はコンサル頼みのところが結構ありまして、なかなか市町の職員、また、県の職員でも太刀打ちできないところもございます。県内の各高等教育機関、JAIST（北陸先端科学技術大学院大学）もありますので、そういったところとも連携しながら、とりわけ市町で専門的な人材が必要な場合に、その分野の見極めと対応の問題もあって、例えば今までデジタル推進課長をしていた野見さんを今度市町支援課長に移しました。横串を刺すデジタルの方と市町支援課の方は専門的な人材の配置も含めて、やりとりは丁寧にやっていきたいと思えます。

3点目は、国と県と市町のつながりです。新年度も必ず皆様のところに、少なくとも1市町3時間ずつ訪問をさせていただきますので、今日の発展形でまたいろいろご指導、ご指摘いただきたいと思えます。宮元陸市長がおっしゃったように、月1は難しくても、2カ月に1回ぐらいは、こうやって2時間ぐらいかけてやりとりできる会をリモートでしたいなど改めて思いました。各市町の話聞いて、それぞれの市町で、かほく市の油野市長は余裕を持ってしゃべっています。ああいうものを見ていると、やはり今まで丁寧に取り組んできたプライドは感ずますし、同時にかほく市の職員の皆様も随分一丸となってされたのだなということがよく分かります。皆様がやっていることを共有して理解できるような場を持つためにも、特に私も国会議員の県選出の皆様や、私自身27年間、岸田総理をはじめ、松野官房長官、各大臣、また、各役所の事務次官や官房長はほぼ知り合いが多いので、早い段階で気が付いたことをすぐ対応するようにしたいと思えます。

4点目です。我々は県内の民間事業者、経済団体、社会福祉協議会等社会福祉法人もそうですが、民間団体の皆様との連携もより一層密にしたいと思えます。

5点目です。私も経験がありますが、文化立県というのは言い続けたいと思えます。やはり若い女性の皆様にはいろいろな関心があります。ファッションに関心があったり、子育てに関心があったり、どこに住んだらいい保育、教育を受けられるのかという、大変そういう情報を求めておられますが、そういう意味ではやはり文化度の高い情報の共有をしたり、あるいは産業で言えばコンテンツ産業を呼び込めるようなしつらえをしたいと思えます。珠洲の泉谷市長ともこの間からしゃべっていましたが、奥能登芸術祭は今年も頑張りますが、次回やる時には奥能登の2市2町のエリアの奥能登芸術祭にした方がより一層、県外、全国から、海外からも人を呼び込めると思えますので、そういった発信力を高めるための連携をお願いしたいと思えます。

6点目です。皆様ほぼ一致していますが、地域公共交通、金沢中心の石川線と浅野川線は、村山市長も、粟市長も、川口町長も、それから、亡くなられた白山市の山田市長も、津幡町の矢田町長も、金沢を中心とした地域公共交通の在り方と、奥能登や中能登、白山麓、加賀の公共交通の在り方というのは、多分支援の仕方も違ってくると思えます。私は一番ここも配慮しなければいけない分野だと思っておりまして、北陸鉄道の方々ともお話ししていますが、石川県の二次交通も含めた通勤・通学、日常生活の上での地域公共交通の支援、これはやはり地域ごとに事情が違うということ踏まえて丁寧に対応したいと思えます。

それから、7つ目は、新幹線の時代がいよいよ加賀まで来ますけれども、やはり能登空港と小松空港と新幹線、あと海で言えば、金沢港と七尾港、また、輪島港と、拠点をしっかりつなぐ上で物流と国防と安全・安心。国防で言えば志賀原発との連携もより密にしていきたい

と思います。県内の拠点をいかに有効に繋げていくかということはやっていきたいと思
います。

8 番目です。目標値を立ててやれと、そのとおりですので、K P I 指標については各分野
においてできる限り数値化をするという部分と、数値化できない、アナログ的ではありますが、
これは私自身や、石川県の職員が各市町を訪問させていただいたときに、今の成長戦略
の方向性がうまくいっているのか、もっとこうしたらいいのか、できる限り数値化のことは
K P I 指標をやろうと言っていますが、それだけでは補えない部分もありますので、それは
市町支援課もごさいますし、両副知事や企画振興部長や総務部長など、関係部長も直接皆様
とのやりとりの中で今の成長戦略の進捗具合をご指摘いただいて、お願いしたいと思
います。

私は今回良かったなと思いましたが、令和 5 年度のデジ田交付金は 1 2 億円満額付きま
した。多分 1 7 市町それぞれから要望いただいていたものについては、満額で、岡田直樹地
方創生担当大臣と河野太郎デジタル大臣、西垣淳子副知事が丁寧に根回しをした上で、しっ
かりと対応させていただきました。来年も再来年もまた同様に早め早めに情報を得て、こ
うした交付金で獲得できるものはどんどん獲得していきたいと思しますので、いわゆるデジタ
ル化とグリーン化についての横串を刺す政策については、また皆様にも早めにご指摘を頂
いて、それを踏まえて対応したいと思します。

以上 9 点申し上げましたが、私自身も足らざるところがたくさんございますが、よりコミ
ュニケーションを取りながら皆様とともにやっていきたい。ある意味で言えば、一人一人の
県民に目標があって、やりたいことがあって、それに挑戦できて、加えて万が一の災害があ
ったときにもみんな支え合うことができる横の連携があると。どうしても県外の方々から
は、金沢市独り勝ちのような表現をされるのですが、そうではないと。1 9 市町みんなが連
携し合っていて初めて金沢の魅力も発信されるわけでありますので、私自身も金沢に住ま
いはしておりますが、珠洲から加賀、山中、山代まで、県内全域一丸となって県民の皆様が前
向きに取り組むことができるように、また、残念ながらこうした経済活動等に参加できない
障害のある方とか、ひとり親家庭とか、大変厳しい状況にある中小零細企業の事業承継の問
題など、本来行政が手を差し伸べる分野についても配慮してやっていきたいと思します。

短い時間ではありましたが、皆様にご協力いただいたおかげで、大体予定の 1 0 時 3 0 分
前に終わることができるようになりました。W B C の結果が私も気になるころではありま
すが、皆様方にも改めて今日 1 日頑張っていたきたいと思します。私から最後にお礼申し
上げます。本当にどうもありがとうございました。